



©Markus Henttonen

指揮

オッコ・カム

Conductor : Okko KAMU

1946年フィンランドのヘルシンキ生まれ。シベリウス・アカデミーにてヴァイオリンを学ぶ。1965年にはヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団首席第2ヴァイオリン奏者、1966年～1968年にはフィンランド国立歌劇場管弦楽団コンサート・マスターを務める。この間独学で指揮法を修め、1969年にはカラヤン国際指揮者コンクールで優勝、指揮者としての国際的な地位を確立する。翌年ニュー・フィルハーモニーオーケストラを指揮してロンドンにてデビュー、以後ベルリン・フィルハーモニーやボストン、シカゴなど超一流オーケストラから招かれている。これまでにフィンランド放送交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、ストックホルム交響楽団、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、コペンハーゲン・フィルハーモニーの首席客員指揮者を歴任。また、シンガポール交響楽団首席客員指揮者(1995年)、フィンランド国立歌劇場首席指揮者(1996年)、ローザンヌ室内管弦楽団の首席客員指揮者(1997年)を務める。この間日本へも度々来日し、日本各地のオーケストラを数多く指揮している。

2011/12年のシーズンから2015/16年までラハティ交響楽団の音楽監督を務め、2015年シベリウス生誕150周年記念イヤーには世界各地で演奏、日本でも交響曲全曲公演を開催、その演奏は絶賛された。

1994年以来スウェーデン王立音楽アカデミーのメンバーでもある。



©TAKUMI JUN

ヴァイオリン

周防亮介

Violin : Ryosuke SUHO

2016年ヴェニヤフスキ国際ヴァイオリンコンクール入賞及び審査員特別賞受賞をはじめ、日本音楽コンクールやダヴィッド・オイストラフ国際ヴァイオリンコンクールなど、国内外の数々のコンクールで優勝や入賞の実績を持つ。2015年「第25回出光音楽賞」、2016年「第25回青山音楽新人賞」を受賞。12歳での日本の主要オーケストラとの共演を皮切りに、パリ管弦楽団やシュトゥットガルト室内管弦楽団など数多くの国内外のオーケストラと多数共演。東京音楽大学アーティスト・ディプロマコースを修了し、現在は江副記念リクルート財団奨学生としてメニュートン国際音楽アカデミーにて研鑽を積む。

使用楽器はNPO法人イエローエンジェルより貸与されている、1678年製ニコロ・アマティ。

東京21世紀管弦楽団

Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人たちと手を携え、今までの固定観念にとられない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して、演奏活動を進めていくオーケストラ。これまでに2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップの日本公演、オペラ界のビッグスター、テノールのファン・ディエゴ・フローレスの日本公演に出演し、好評を博した。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルク国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、2020年度は東京芸術劇場でベートーヴェンやブラームスといった重厚なドイツ音楽で定期演奏会を行い高評を博した。このほかバレエやポップスにも出演するなど活動の場を広げている。

ベートーヴェン

2022
「第九」 12|8

18時開場 19時開演

東京芸術劇場コンサートホール

浮ヶ谷孝夫(指揮者)

ブリギッテ・ゲラー(ソプラノ)

ベアーテ・メーベス(メゾ・ソプラノ)

田中豊輝(テノール)

カルステン・メーヴェス(バリトン)

東京21世紀管弦楽団

東京21世紀管弦楽団「第九」合唱団